

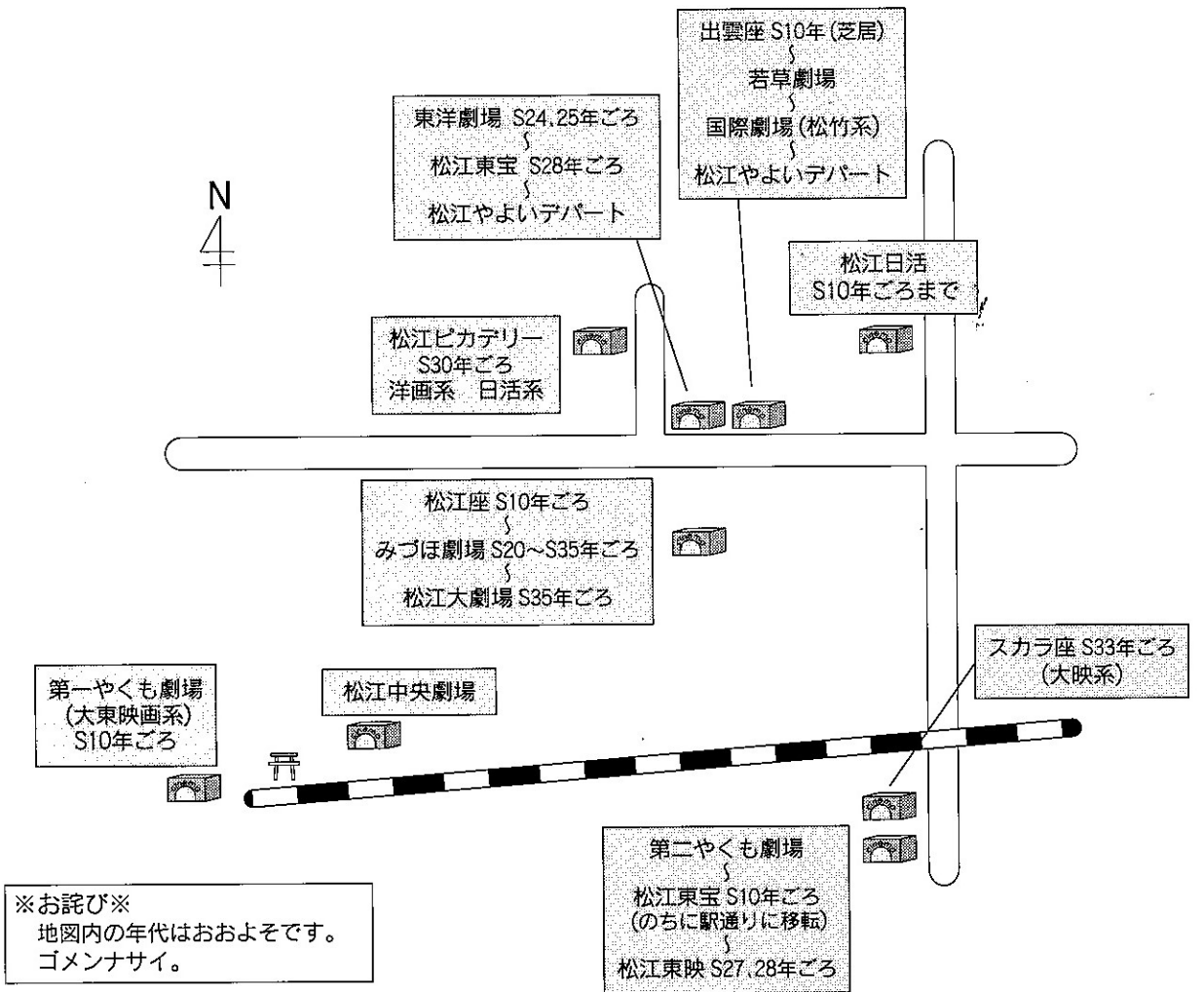
寺町界隈

TERAMACHI-KAIWAI

わたしたちの町の、わたしたちの情報誌。9月号 ■発行/寺町のまちづくりを考える会事務局 ☎21-3461 ■通算9号

寺町はシネマ文化の中心 (昭和10年ごろ～昭和40年ごろ)

当時は娯楽の王様といえば映画、テレビも今の様に多様化せず車も少ない時代。市民のたのしみといえば涼しい館内で映画を見ることではなかったろうか。一日中映画を中心に松江で一番の賑わいを見せていた。ゴジラシリーズ上映の日曜日などは朝日町交差点付近まで子供達の列がつづいたことを記憶している。



私たちは、日常的に歩くということを忘れてしまったようです。忘れてしまった原因は、いう迄もなく車であり、車が生活にもたらした合理性は、道路の発達とともに、計り知れない便利をもたらしました。もはや車なくしては、個人も社会もなり立たなくなっています。

しかし、また、その便利性と共に失ったものも多いのではないのでしょうか。失ったものの一つに、歩くという行為があります。歩くということは、私達人間の生態のリズムに一番叶う速度だといわれています。歩くというスピードを超えてしまった結果、人間の感性は、自然の思ひかいに触れることを忘れてしまいました。

より速く、より遠くへ、より合理的に移動する機能を追求するあまり、点から点を結ぶその時間の空間にあるものや、意味するものを見失い、自然のもつ優しさ、ゆたかさ、恐ろしさなど、人間形成におよぼす精神のありようを薄味なものにしてしまっているように思えるのです。

連載 人風景 ②



例えば、漂泊の俳人といわれた松尾芭蕉の旅について考えてみれば解るように、旅は歩くという思想から出発しなければならぬことを教えてくれます。ものを観るといふ行為のなかには、自然と呼吸を合わせるという態度がなければ、自然は文芸の創造に、何んの啓示も与えてはくれません。芭蕉の文学は、その果てしない時間の孤独と、自然の深さを引き摺りながら、時を刻んだ証として与えられたものなのですから。

現代のように、生活のサイクルが分単位でめまぐるしく変化するなかで、生態のリズムは、歩くという時速三キロメートルの速度では合わなくなっています。

考えてみますと、商店街の有りようも、また、このことと無縁ではありません。たしか昭和四十年代のオイルショックを境目に町の様子がしだいに変化してきました。町の中心部の人口が拡散しはじめ、いわゆるドーナツ化現象と言われるようになったのです。商店街からも人が消えていきました。そうしますと、本来商店街の特長

歩く 人話世話協会文化樹葉 俳句現代 俳句協会 各部 主伺

にんじょうこうさてん

情 交差点

います。私が二十代からたまたま始めた俳句も、創り始めて、そろそろ三十年あまりになろうとしています。石の上にも三年、といわれますように、同じことを永くやっていると、思いがけない発見や、恩恵に浴することがあるものです。例えば物を観察する、という習慣が身につくということもそうですが、観察するといふ行為には、物の本質を観るという意味も加わっているのです。もの本質など、大層なことをいふつもりはないのですが、そうした事柄は、すべて、対象との対話によって与えられるものだと思うのです。四季にふれて自然に対し挨拶を送るという俳句の在りかたは、再び芭蕉の旅に学ぶまでもなく、ものに感動しなくなったといわれる現代人が、もつとも回復しなければならぬことの一つではないでしょうか。

人間が人間らしく在るためにも、人間の思考にかなうリズムを取り戻したいものです。

でありました、職住一体の伝統的な商家の在りかたや、生活の互助性もまた失われるようになりました。そうした要因もふくめても、なお人々が歩かなくなったことが、商店街を衰退させていったという考えは成り立たないでしょうか。

鶏が先か卵が先か、という論もありますが、商店街で物を購入するといふ日常的な習慣を変化させていったのも事実でしょう。

商店街は、いま何より人が歩く町を創り出す必要があると思います。町の道路を現状のままにして、いくら装いを凝らしても、そこで、車が主役を演じているかぎり町は生きかえりません。単に道路を造るといふのではなく、道を創るといふ発想が必要なのではないでしょうか。なぜなら、道は人に通じ、人のところに通じるものだからです。さて、理屈はべつにして、話題を少しかえてみたいと思

■お店紹介



御食事処

本陣

TEL 21-4684

※営業時間 16:30~

※定休日 月曜日

会席	松五〇〇〇
	竹四〇〇〇
	梅三〇〇〇
造り定食	一、五〇〇
うなぎ定食	一、五〇〇
天ぷら定食	一、五〇〇
鍋	一、八〇〇
井	うなぎ井 一、二〇〇
	天井 七〇〇

■大小宴会も承ります。

寺町界隈

去る7月22日(土)、宗泉寺におきまして、「公営場外券売場」設置について町内会員の意見をまとめるため町内会、臨時総会を致しました。その結果を謹んでお知らせ致します。

(第一部) 万代町地内に計画のある「公営場外券売場」の説明会。

駅通り商店会様より錦織氏、(株)日本海観光様より楳林、中村両氏にご出席頂き、説明を受け、質疑応答いたしました。

(第二部) 臨時総会。

町内関係者のみで、本施設に対する町内としての態度を話し合いました。町づくりとしての娯楽施設その他を建設することには「まちの活性化につながる」として異存はありませんが、「場外券売場」の設置については「少年非行の原因となる恐れがある」、「交通渋滞の恐れがある」等の大方の反対意見に加えて、「万代町の総会の前に、場合によっては、万代町とほとんど同じ程度の影響をうける北寺町に相談があつては良かった」「白濁地区として反対しても強引に進められるようなことがあれば、署名運動でもしなければならぬ」というような意見もありました。

採決の末、場外券売場設置については反対意見が大方を占めました。後日予定の「白濁地区町内会連合会」「交番・白濁地区連絡協議会」合同会議においてこの件が議題となっており、その場において反対の意見表明することに留め、その会議の結果をみることにいたしました。

(事務局注) 文中の「交番・白濁地区連絡協議会」は、各種事情から、今回の対外的意見表明時は、「交番」の部分を削除することとなりました。

お知らせ

駅本通り商店会、事務局からの

まず、当商店会と(株)日本海観光の計画による「総合娯楽施設」につきまして、万代町、北寺町始め、多くの方々に貴重なお時間を頂きました点、厚くお礼申し上げます。

本施設につきましては、関係方面と繰り返し検討しただけでなく、何度かの視察の結果、決定した計画でございます。また、昨年はベストの案と考えました計画が、松江市、地権者ともに採算や資金的な折り合いから流れた経緯もございませぬ。

確かに、補導関係の方の御専門的なご意見をうかがいますと、日々のご努力に敬服いたします。また、本計画の至らぬ点も、目につきます。しかし、一方では、今回の活性化計画のなかでは、お寺さんをはじめ相当数の方々が貴重な土地を提供されたり、永年、住みなれた地からの移転を余儀なくされます。その方たちの多大な犠牲を無視したところで、今回の話は決して出来ません。いわんや、補償費では補えない多くの投資が個人の責任でなされるのですから、当然ながら、現実的な解決方法を提案する義務と責任がございます。

我々としては、PTA始め、多くの方々と今も話し合いを続け、より欠点の少ない具体案作りに励んでおります。今後とも、皆様ごたの忌憚のないご意見、ご要望、そして、ご反対の方々からの現実的な提案のご提案に対しては、おおいに期待いたしております。

また、「東北ニチイ」が、秋田県の新設のショッピングセンター内に集客強化の為、場外馬

まちづくりインフォメーション

お知らせ

北寺町々内会からの

白濁地区町内会長・各種団体連絡協議会が開催されました。

7月26日(昨夜、ステイックビルにおいて、開会されました。中心議題は、駅通りに建設の企画のある、総合娯楽ビルについてでした。

特に、ビルの中に設置が構想されている「公営場外券売場」につきまして、万代町と北寺町の意見の対立もあり、この間の経緯の説明の後、討議に移りました。

賛成意見としては、「この施設は街づくりの環境である点」、「昨年度考えられた公共性の高い施設が松江市・地権者ともに予算や採算の面で不可能であった点」、「万代町の地域・歴史性等から違和感の少ない点」、「単にこの地域の活性化のみならず、松江市全体に交付金等が入る点」等がでました。反対意見としては、「青少年非行の温床になる」、「交通問題の恐れが出る」、「周辺地域はもとより松江市全体の地域の安全性がそこなわれる」、「県内はもとより各地で反対運動があつた代物」等の意見がありました。

しかし、両町内以外の地区では、まだ、ほとんど話し合いもなく、また、本計画もおおまかな企画段階で、具体的な内容も不明確なので今後の推移と各地区や団体の論議をしばらく見守ることになりましたが、とりあえず当日の申し合わせにより、早い機会に松江市と市議会あてに、周辺地域住民の意向を尊重し市民の立場で、慎重に対応されるよう要請する陳情書を提出することになりました。

お知らせ

白濁地区町内会からの

「総合娯楽施設構想案」(平成7・8・9現在)

① 現、日本海観光(株)の駐車場と松江やよいの敷地を複合的に開発する。(以下、便宜的にA館、B館と称するが、具体的にどちらかを指し示すものではない。)

② A館は、5階建て程度の立体駐車場とし、1階部分は、賑わいづくりの環として、テナントを導入する。また、募集時には、道路拡幅による移転を余儀なくされる方等の救済を目的として、優先的に募集する。また、駐車スペースは、非開催日、時間は、原則無料とし、周辺商店街、住民に開放して、市内中心部の大型駐車場不足の解決の一助とする。

③ B館は、地下全部、1階一部を、コンビニを含む、食品を中心としたショッピングゾーンとし、1階残りをテナント、無料託児スペース、深夜(または24時間)の保育所、集会所等の公共スペース、その他を考える。

④ B館2階は、オールシーズンのスケートリンク、室内プール等、都市型のスポーツ施設を中心に考える。また、同施設は、第2、4土曜日の午前中の無料開放を前提に、各種団体と連絡を取り、青少年の課外活動の一助とする。

⑤ B館3、4階は、公営場外券売場とする。しかし、1階入り口は、他の施設の入り口と分け、未成年者の入場について、厳重に制限をする。

⑥ A、B両館の一方の壁面に大型スクリーンを設置し、一方の1階部分に広場のスペースを設置し、待合わせ場所的な賑わいゾーンを意識する。

以上

このところ、マスコミ等で、この地区の「街づくり」のことをとりあげていただくことが多い。

このこと自体は、とてもありがたいのだが、時折、「寺町のまちづくりを考える会」が「総合コミュニケーション施設」を計画しているような誤解がある。(日本海観光(株)と駅通り商店会が誘致) ややこしいのだが、本会はあくまで中立な立場である。

幸い、和多見の山本会長さん始め、そのあたり、御理解いただいて、中立な立場で「街づくり」のことは御協力いただいている。

全体の住環境整備については各地区でも積極的に御討議下さるようお願いしたい。

(編集)

毎日厳しい残暑が続く、ビールの消費もうなぎのほりです。さて、ビールの話題といえば、「地ビール」参入の動きが本格化し始めました。現在全国で八社が製造しており、増産を決めた企業もあり滑り出し好調のようです。かつて松江藩は横浜でビール工場を経営し、松江藩ビールをつくっていたそうです。松江は地酒処ですからぜひ「地ビール」事業に参入し、駅通り拡幅事業が完成する頃には「寺町ビール」で乾杯というのはいかがでしょう。

(倉子)

随分前になるが何かの会で、ある会社の社長さんに、「店の前をそっじもせず、水も打てない者が活性化を語るな」と教えられたことがある。

我が町内はどこであろうか、コミだらけの町にお客様はきてくれるだろうか。自分自身、もう一度考えてみたい。

今、自分にできることから、はじめてみる。自分が、賑わいをとりもどす第一歩だと思ふ。

(尾郷)

お店紹介

YA・MA・SA・KI SPORTS

なんでもご相談ください

ヤマサキ スポーツ

〒690 松江市寺町198-57
松江やよいデパート3F
TEL・FAX(0852)23-8706

ペットのことなら

原鳥獣店

松江市寺町130
TEL21-1424

お家に関して70年のプロが
あなたのおそばに!

住宅相談コーナー
(パートナーハウスいとうや)

7/1(土) OPEN

お家のことならな〜んでもご相談下さい。

やよい2Fサービスカウンター内
☎(0852) 28-8585

編集後記

このところ、マスコミ等で、この地区の「街づくり」のことをとりあげていただくことが多い。

このこと自体は、とてもありがたいのだが、時折、「寺町のまちづくりを考える会」が「総合コミュニケーション施設」を計画しているような誤解がある。(日本海観光(株)と駅通り商店会が誘致) ややこしいのだが、本会はあくまで中立な立場である。

幸い、和多見の山本会長さん始め、そのあたり、御理解いただいて、中立な立場で「街づくり」のことは御協力いただいている。

全体の住環境整備については各地区でも積極的に御討議下さるようお願いしたい。

(編集)

毎日厳しい残暑が続く、ビールの消費もうなぎのほりです。さて、ビールの話題といえば、「地ビール」参入の動きが本格化し始めました。現在全国で八社が製造しており、増産を決めた企業もあり滑り出し好調のようです。かつて松江藩は横浜でビール工場を経営し、松江藩ビールをつくっていたそうです。松江は地酒処ですからぜひ「地ビール」事業に参入し、駅通り拡幅事業が完成する頃には「寺町ビール」で乾杯というのはいかがでしょう。

(倉子)

随分前になるが何かの会で、ある会社の社長さんに、「店の前をそっじもせず、水も打てない者が活性化を語るな」と教えられたことがある。

我が町内はどこであろうか、コミだらけの町にお客様はきてくれるだろうか。自分自身、もう一度考えてみたい。

今、自分にできることから、はじめてみる。自分が、賑わいをとりもどす第一歩だと思ふ。

(尾郷)

提案 します!!

わたしたちのまちづくり

第三回

サンキチの
(官・民・専)
まちづくり

昔から、官(政治)、民(民間)、専(専門家)の三人の気狂い(?)が集まると、困難も成し遂げられるそうです。
シリーズで皆さんのご意見を連載します。

官 出川 修治

松江市議会議員

松江の軸づくり

その活動を注目していた「寺町のまちづくりを考える会」より原稿依頼を頂いたが、私は「官」の立場ではないことをまずお断りしておきたい。私は在野精神をモットーにしており、本来、市会議員と言ったものは「民」の利益代表者であります。最初から、こうしてこだわったのは、私自身、五年前より「二十一世紀松江市総合政策研究会」を主宰し、八十数名の会員の皆さんと共に、民間の立場から松江の街づくりについて色々と提言してきたからであります。そうした立場で以下私見を少々。

私が今街づくりについて最も推進したいのは、松江の核としてのJ.R.松江駅周辺の再整備であります。

駅前には何百台も収容できる地下駐車場と広大な緑地空間を造り、周辺には多くの市民が離合集散できる大型レクリエーション施設が是非とも必要と思われまます。さらに駐輪場の整備と共に



へと続く道路を何としても、松江市の「軸」として育て上げなければなりません。そうした意味でも、駅本通り商店街

に「サテイ」から「ピノ」シヤミネ」につながる鉄道高架沿いの市道を整備し高架下の利用と合わせて回遊性のあるショッピングゾーンにすることができれば大変魅力ある地帯となります。この地域と駅通りから六道湖畔・美術館

ある。人々は、とりあえず車をどこかへ置いて、恋人と語りながら、あるいは夫婦水入らずで、青空のもとをブラブラ歩く。歩道では大道芸人が人気を集めている。「Urban Outfitter」といったトレンドイブな専門店もあり、新しさと古さが混じりあったところもよい。青空の下を歩く、ということは、心地のよいものなのだ、ごく自然に思えてくる。

さて、だからといって、今こそ市街地商店街の活性化をやるべきだ、などと言う気は、さらさらしない。最大公約数的な現状認識を言ってしまうと、「今はモーターゼーションの時代であり、巨大駐車場を持った郊外型大型商業施設の優位性は当面は変わらないだろう」ということにはやはりなる。

小都市活性化の好例として最近よく登場する小樽、その牽引車の役割を果たしたといわれるガラス製品の大型専門店「北一硝子」——古い石造の倉庫を改造した「北一硝子・三号館」は小樽運河のすぐ近くにあつて、評判通りのすばらしい店だ。ガラス製品の圧倒的な種類と量、それらをこだわりの雰囲気であまく演出する——誰もが「これはすごい」と店を見て思う。しかし、現地を訪ねてみて、なるほど、と膝を打ったのは「北一硝子」の経営者が自店のすぐそばに、なんと大型バスが50台(1)も入る大型駐車場を早くから確保していたと知った時である。このあたりが肝心なところなのではないかと思う。

自社の自信の商品は何なのか、他に



ない特徴はなんなのか——これが人々の心ともつながり、自分の素直な気持ちともしつかりつながっていないといけない。「北一硝子」へ行くと、そのことがよくわかる。これでもか、これでもか、と自信のガラス製品が登場する。そこにあふれる経営者の強烈な思いがすべての出発点である。

しかし、それだけではダメなのだ。大駐車場を確保したたかさが、やはり、不可欠なのだ、と思う。この二つの面を併せ持つことが大切なところだ。店というレベルではなく商店街というレベルになつても、街づくりというレベルになつても、話は基本的には同じだろう。そうした観点から言えば、個性あふれる人材と冷静な眼を備えた人たち、それぞれに多士済々の「寺町界隈」の今後の活躍に大いに期待したいところだ。

民 田江 泰彦

松江今井書店 代表社員社長

寺町界隈に期待しています

カリフォルニアのパークレーといえ、大学の街であるが、その「Park & Ride」に古い倉庫街を再開発した「商店街」が

の皆さんが活性化に向けてひたむきな努力をしておられることに対し、何としても応援したい気持ちで一杯です。「賑い」があつてこそその商店街。そうした意味では、核施設として「ポトピア」の誘致についても魅力ある提案の一つでありましょう。

ある。SC(ショッピングセンター)ではない。「商店街」である。「モール」などといわれる硬質なものではなく、ノンビリ歩くことが目的のような街だ。歩きやすい歩道と街路樹、そしてベンチ。テイステイな専門店が、通行量の少ない車道沿いに並んでいる、まさに「商店街」である。こんな商店街の喫茶店に腰をおろして、休日の昼下がりをのんびり読書でもして過ごせたら……と誰もが思う街である。そんな街を、経済効率をとことん追求する国・アメリカの人たちが創り出しているのだ。ガイド役を買って出てくれた日さんはこう言う。「ロサンゼルスが開発は失敗だったのではないかと感じる人が多くなっています。郊外のやたらに大きなSCとスラム化したダウンタウン。どちらも心の安らぐことないところですよ。そのことに人々は気づきはじめているのです」と。

サンタモニカブレイス(SC)に通じるブロードウェイと呼ばれる通りも、古い商店街の再開発されたもので、大いにぎわつていた。一部の商店の上層階をマンションにしているのも、この特徴だ。もちろん、西海岸特有のカラツとした開放感が最大の売りもので

お知らせ

島根大学政治学 フィールドワーク調査団

この度、政治学ゼミ・政治学講義の一環として、松江市、寺町の地域活性化を研究対象とさせていただきますことになりました。地方大学の学生として、我々しか学習することができない「地域」が抱える問題解決を皆さん

と一緒に進めて行きたいと思えます。我々は寺町周辺地域が松江市の顔として、活力のある住み良い街になることを理想としています。松江市がもつ松江らしさ、寺町がもつ独特の雰囲気を見失うことのない街づくりを目指しています。寺町地区に在住の皆様並びに商店街の皆様、これからアンケート調査、ヒヤリング調査等でお邪魔することがあると思いますが、ご協力の程よろしく願います。

